

特集：交流会でつなぐ！ 中小企業診断士と経営者の輪

序章 ビジネス交流会の実態



稲葉 寛

東京都中小企業診断士協会城北支部

1. はじめに

(1) 交流会と中小企業診断士のつながり

中小企業の経営者同士を結び付けるビジネス交流会や異業種交流会（以下、ビジネス交流会）が数多く開催されている。主催者も、国、都道府県・市区町村などの自治体、商工会議所や商工会などの経済団体、銀行・信用金庫・信用組合などの金融機関、民間企業や個人など、多岐にわたっている。

交流会の参加者たちには、新規顧客や取引先・ビジネスパートナーの開拓、人脈の拡大、自己研鑽、新たな価値観に触れたいなど、さまざまな目的がある。交流会の主催者も、それぞれの母体組織の目的を持ちながら、中小企業活性化の一助を担うためにさまざまな工夫を凝らしている。

私自身がいくつかの交流会に参加して主催者や参加者と話をしてみると、交流会を通して達成したい目的に至るにはいくつもの課題があり、その課題を解決するために中小企業診断士が活躍する場があるのではないかと感じることもある。

そこで、交流会の主催者の思いや交流会の課題、中小企業診断士に期待される役割を取材して紹介する。

(2) ビジネス交流会の定義

本記事における交流会の定義は、業種の異

なる企業の経営者が、ビジネスに関する意見交換や連携を目的に集う会合やイベントのことを表す。加えて、企業経営者をターゲットに、最終的にビジネスにつなげることを念頭にした趣味の集まりなど、人脈を増やすための会合やイベントについても広い意味での交流会とみなす。

2. 交流会の種類

(1) 主催者の種類と目的

ビジネス交流会はさまざまな母体が主催しており、主に①～④を母体とする4つの種類に分けられる（図表）。

①国、都道府県・市区町村などの自治体

中小企業の活性化を促すための施策を定める国や、その施策を遂行する都道府県・市区町村などの自治体が、中小企業経営者の交流を目的に、交流会を主催している。

たとえば、中小企業基盤整備機構では、「出会い・つながり・共創」というコンセプトのもと、TIP*Sという企業経営者の交流の場を設けている。千葉県では「ちば起業家支援事業」の一環として、県内各所で地域クラウド交流会を開催し、起業家と、彼らを応援する経営者たちとの交流の場を設けている（第1章で事例紹介）。

②商工会議所や商工会などの経済団体

商工会議所や商工会などの経済団体では、会員企業向けサービスとして、会員企業間の

図表 交流会主催者の種類と目的

主催者	主な目的
国、都道府県・市区町村などの自治体	中小企業活性化の施策立案・遂行
商工会議所や商工会などの経済団体	会員企業の経営力向上、満足度向上
銀行・信用金庫・信用組合などの金融機関	取引先企業向けサービス、マッチング、経営力向上、新規開拓
民間企業や個人	ビジネス、主催者自身の思い

交流促進と、市場拡大や取引拡大など会員企業の成長を目的に、交流会を主催している。

各地の商工会議所や商工会で取組みが見られるが、特に大阪商工会議所では、「ふらっと」という小規模交流会を年90回以上開催しており、会員企業の交流を積極的に行っている（第2章で事例紹介）。

③銀行・信用金庫・信用組合などの金融機関

金融機関では、取引先企業に対するサービスとして、取引先企業間や大企業とのマッチングを目的に、交流会を主催している。また、交流会をきっかけに取引先企業が成長したり、新たな取引先が増えたりすることで自らの成長につながるというメリットがある。

参加する中小企業にとっても、自社を金融機関に深く知ってもらうことで、金融機関との関係を密にする機会が生まれる。

④民間企業や個人

東京・大阪をはじめとする大都市圏では、民間企業が、交流会そのものをビジネスとして運営しているケースがある。

また、地域住民を対象に交流の場を提供する目的で個人が交流会を主催している。個人が主催する交流会は、主催者自身の思いに共感する人が参加する、という特徴がある。

そのような中から、地域活性化を目指す中小企業診断士の中村剣氏が長野県塩尻市で主催している信州アルプス大学（ソーシャル系市民大学。第3章で事例紹介）と、地域の企業同士のつながりを作ることを目指す漫画家の稲川久美氏が千葉県柏市で主催している柏

ビジネス交流会（第4章で事例紹介）の2つを紹介する。

(2) 中小企業診断士のかかわり

税理士・弁護士・社会保険労務士などの他士業が交流会に多く参加しているのに対して、中小企業診断士の参加率はさほど高くない。その中で、中小企業基盤整備機構のTIP*Sや千葉県の地域クラウド交流会では、主催者の一員として中小企業診断士が運営にかかわっている。また、信州アルプス大学は、主催者自身が中小企業診断士である。

中小企業診断士自身が交流会の運営にかかわっている事例や、交流会に参加した事例から、中小企業診断士側から見た交流会の意義についても紹介する。

また、交流会の参加者の声を聞くと、「いろいろな人と出会うことができ楽しい」、「他の経営者の話がためになる」という意見がある一方、「なかなかビジネスにつながらない」という課題もある。中小企業診断士の支援が求められる事例についても紹介する。

今回4つの交流会を取材し、それぞれの主催者に「交流会の活動内容」、「主催者の思い」、「交流会の流れと、課題や工夫点」、「中小企業診断士のかかわり」、「今後の活動」についてヒアリングを行った。

組織の目的、ターゲット、地域性の違いなどから、それぞれ運営方法は異なるが、課題解決のヒントが見えてくると思われる。

稲葉 寛

(いなば ひろし)

学習院大学卒業後、大手SI企業に入社。現在はシステム検証ビジネスを担当し、顧客システムの品質向上をサポートしている。2010年中小企業診断士登録。2015年4月より、城北支部認定研究会・企業内診断士フォーラムの代表幹事を務める。

